〝啄木のふるさと〟『もりおかの短歌（うた）』
第六回 年間最優秀賞 決定！

啄木のふるさと『もりおかの短歌』事業は、啄木が生れ育った盛岡を訪れる観光客や市民による啄木短歌の特徴である『三行書き』の短歌づくりを通じて『短歌のまち もりおか』を推進することを目的に平成二十年より実施している事業です。四つの期間（夏の部・秋の部・冬の部・春の部）に分けて募集し、一年間に応募のあった六三七首の中から第六回目となる年間優秀作品が決定いたしました。

年間最優秀賞（一首）

群舞する
盛岡さんさ夏の夜
響け轟け天の川まで

盛岡市　昆野　寛顕

【受賞者からのコメント】
この度の年間賞では、途方もないご褒美に与りましたことに、心からお礼と感謝を申し上げます。私の「盛岡さんさ」が、天の川までとどいたのかと思うと、とても嬉しく、そして有り難く感じています。これからも「啄木のふるさと盛岡」探しを短歌い続けていきたいと思っております。

【審査員講評】
●ギネスブックにも載る盛岡さんさ、殊更太鼓の群舞は素晴らしい。その太鼓の音は天空に轟く。下の句「響け轟け天の川まで」は言い当てた表現である。（八重嶋）
●夏の祭り「盛岡さんさ」の雰囲気をよく伝えています。「響け轟け」の表現が力強くてとてもよいと思います。（柏崎）
●世界一ともなった盛岡の太鼓フェスティバル・さんさ踊り――その賑々しさが太鼓の音と共にまざまざと目に見えてきます。季節はちょうど旧暦の七夕の頃で、「天の川」が祭りの時を表していますね。さんさ踊りを見ている作者の具体的な心情なども想像させられます。（山本）
●盛岡の夏祭「さんさ踊り」の光景が見えるようです。「響け轟け」と同義語で畳み込む表現に太鼓の音がせまってきます。「天の川まで」の結句により一段と詩的になりました。（松田）

年間優秀賞（二首）

まっしろいブラウスみたいな
風の吹く
もりおかはもう夏の気分だ

神奈川県鎌倉市　大西　久美子

【受賞者からのコメント】
昨年の夏、盛岡を訪れた時、この町を吹く風は、白いシンプルなブラウスのように爽やかでした。学生時代をこの地で学んだ祖母、母、また定年後神奈川から岩手に移り住んだ父も亡くなり、現実は寂しくなりましたが、盛岡を吹く風はいつも懐かしさと元気をくれるのです。

【審査員講評】
●初夏の風を「まっしろいブラウスみたいな」と比喩したところがとても爽やか。そして「もりおかはもう夏の気分だ」は作者の気持を率直に表している。（八重嶋）
●盛岡は川の多い町ですが、その初夏の様子をさわやかに表現しています。啄木や賢治も親しんだ季節です。（柏崎）
●「まっしろいブラウスみたいな」という表現に、若々しさと清々しさを感じます。また、「風」の表現から、夏と共に秋の気配を感じさせます。作者の盛岡への思いが表現されています。（山本）
●吹く風に寄せた「まっしろいブラウスみたいな」という表現が象徴的です。街川が流れ、空気の澄んだ、爽やかで清潔な盛岡の街の印象に繋がる表現に惹かれます。（松田）

桜咲く十六羅漢公園に
花見のごとし
羅漢の円座

盛岡市　小笠原　敏夫

【受賞者からのコメント】
私はかつて十六羅漢公園近くに居住していました。離れた所に居を移して二十年。いまだ、春夏秋冬、羅漢坐像のお姿の記憶が色濃くあります。それは羅漢坐像建立の由来を知るからでもあります。盛岡人として、盛岡を旅する人に、羅漢坐像の存在、建立の由来を知っていただきたいとの思いを秘めた一首です。

【審査員講評】
●十六羅漢公園の桜もよい。羅漢が公園を囲み坐っておられる静かなオアシス。羅漢が円座してまるで花見をしているようだ、といったところがよい。（八重嶋）
●羅漢さんの様子をほほえましくとらえています。「円座」の言葉が効果的に据えられています。（柏崎）
昔から盛岡の人たちに親しまれている「十六羅漢」は、天保の飢饉で餓死した人々を供養するために建立されましたが、飢饉とは無縁となった現代においては、穏やかな表情で円座しています。それを「花見のごとし」と表現することによって、作者の心情も表現され、微笑ましさを感じさせます。（山本）
●十六羅漢公園は、作者がよく訪れるな所でしょうか。羅漢の印象は季節によって異なるはず。「桜咲く」春は羅漢の表情もきっと和やかに見えることでしょう。過不足のない表現に感心しました。（松田）

奨励賞（二首）

名のごとく
石割桜岩を割く
震災超えて克てとごとくに

岡山県倉敷市　佐藤　豊行

【受賞者からのコメント】
平成二十五年秋、盛岡の旅で石川啄木の「三行書き」を初めて知り、この手法に興味を持ちました。旅の思い出に―と軽い気持ちで応募したのですが、まさかこのような賞を頂けるとは思いませんでした。不朽のお土産となりました。有名な啄木にちなんだ賞を誇りに今後も短文芸に精進します。ありがとうございました。

【審査員講評】
●石割桜の岩を割いて雄雄しく立つさまは人々に勇気を与える。東日本大震災災害復旧を願っているように、と、二つの事実を結びつけるところがよい。（八重嶋）

夫（つま）が待つ　足取り軽く
片栗の　粉を踏むよな
盛岡の道

東京都中野区　今井　貨預

【受賞者からのコメント】
この冬、単身赴任の夫を初めて訪ねたときの、うれしい気持ち。盛岡の穏やかさにちょっとホッとしました。そんな気持ちを、帰りの駅で見かけた「短歌のポスト」に出しました。厳冬のトイレのストーブやパウダースノーに驚き、岩手山の美しさに息をのみ、朝市のおばちゃんの優しさやパン屋さんの楽しさにふれ…来る度に盛岡が好きになります。

【審査員講評】
●盛岡の冬の寒さは厳しい。降り積もった雪も踏めばきゅっきゅっと鳴る。その様子を「片栗の　粉を踏むよな」と喩えていっているところが感覚的でよい。（八重嶋）

四月から六月まで募集した春の部にも、これまでと同様に観光客や市民の方々からたくさんの短歌が投稿され、この度優秀賞十首が選定されました。投稿箱は、当所や啄木関連の施設、市内ホテルなどに設置しております。皆様のご投稿をお待ちしております。

春の部 優秀賞 十首（春の部 投稿数百三十六首 平成二十六年六月選）

わんこそば／一杯食べたら はいじゃんじゃん／お腹がいっぱい もう一杯
福島県福島市 山谷 沙希

意外にも／小さきオニの手形かな／岩手の由来 はじめてぞ知る
群馬県伊勢崎市 大山 美子

もりおかは／朝取り野菜を携えて／友住みおれば 訪ねゆく街
葛巻町 鳥居 京子

ゆうるりと／時間過ぎ行く公園に 座して／南部富士を見てをり
埼玉県杉戸町 小野寺史子

四囲なべて／緑豊け き古里を／恋ふて 青息 吐息なる日々
盛岡市 鈴木 操

うぐいすの／声する方を 振り向けば／岩手山背に 舞う鯉のぼり
盛岡市 西川 政勝

もりおかの／公会堂の 栃の木の／若葉の緑 今日はメーデー
盛岡市 鈴木 充

桜咲く／十六羅漢公園に／花見のごとし 羅漢の円座
盛岡市 小笠原敏夫

五月晴れ／雪の回廊 抜き出れば／岩手山背に 白樺ばやし
紫波町 内村かほる

ふきのとう／今年もやっと 芽を出した／白銀世界 終わったしるし
東京都中野区 今井やいろ

講評

応募作品たのしく拝見しました。ボックスに届けてくれた誠意を一番に汲まなければ、と思いながら選に当たりました。

最終の十首に絞る際は、素材が盛岡に関連していること、一首のどこかに作者なりの発見のあること、作者の心の感じられる表現であることを注視しました。（春の部選者 松田 久恵 氏）

常にお客様の目線で
ICTトータルソリューション&サービス
NJC 検索
ヘルスケアソリューション
ERPソリューション
文教ソリューション
クラウドソリューション
プラットフォームソリューション
NJC日本事務器
http://www.njc.co.jp
東北支社 050-3000-1580
〒980-0021 仙台市青葉区中央 4-10-3 住友生命仙台ビル 12F
盛岡サービスステーション 050-3000-1585
〒020-0024 盛岡市菜園 1-11-3 第二橋産業ビル 7F